

大学と連携した普及活動の事例(1)

土着天敵を用いたIPM技術の確立と普及 (高知県)

- 高知大学と連携し、なすの土着天敵(カスミカメ類)の生態を解明。
- 普及組織が「土着天敵温存ハウス管理運営マニュアル」を作成。
- 土着天敵を用いた防除体系が確立。(導入面積: 6ha(H19)→56ha(H23))

(連携体制)

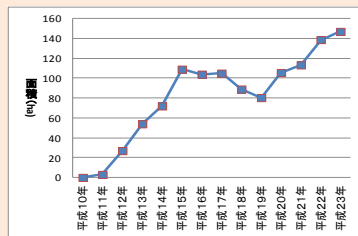
安芸農業振興センター農業改良普及課(普及センター)、県農業技術センター、高知大学

(普及組織の取組)

- ・土着天敵のタバコカスミカメの増殖にゴマが適していることを発見。
- ・土着天敵を温存するハウスを設置し、県農業技術センターや高知大学と連携して管理マニュアルを作成。
- ・高知大学や県農業技術センターと連携し、土着天敵活用事例等について情報交換会等を実施。



タバコカスミカメ



導入面積の推移

鳥獣害の実態を解明し、対策技術を普及 (愛媛県)

- 愛媛大学と連携して集落内にセンサーカメラを設置し、鳥獣害の実態を調査。
- 調査の報告会等を開催し、対策技術の普及を推進。
- 集落ぐるみによる被害防止対策が実施され、鳥獣害が軽減(被害面積・被害額: 1ha・約100万円(H23)→被害の確認なし(H25))。

(連携体制)

東予地方局地域農業室(普及センター)、愛媛大学、西条市

(普及組織の取組)

- ・西条市丹原町川根集落において、イノシシ等の農作物被害が多くなったことから、被害防止対策の必要性を提言。
- ・愛媛大学 武山准教授の指導のもと、センサーカメラ10台を設置し、鳥獣の出没状況を調査。
- ・報告会等を開催し、集落ぐるみで被害防止対策を実施(侵入防止柵の設置: 10.81km(H23~24))。



愛媛大学と連携した実態調査



侵入防止柵の設置

ヤマノイモ半自動移植機を開発 (秋田県)

- ヤマノイモ産地の課題解決のため、普及組織が生産者団体、秋田県立大学、農業機械メーカー等と連携。
- ヤマノイモの2条植え半自動移植機を開発。
- 地域に導入され、産地の維持拡大に貢献。
(機械移植実施率: 0%(H19) → 60.8%(H24))

(連携体制)

北秋田地域振興局普及指導課(普及センター)、県農業試験場、秋田県立大学、農業機械メーカー、JA 等

(普及組織の取組)

- ・「ヤマノイモ機械化推進プロジェクトチーム」を組織し、普及指導員がプロジェクトマネージャーとなり、産学官の役割分担を明確化して推進。
- ・2条植え半自動移植機の導入条件(作付面積1ha以上)と効果(省力化率60%)を実証。
- ・研究開発段階から技術実証および検討会への生産者の参画を促進。



ヤマノイモ半自動移植機



検討会

ハーブを活用したオリジナル商品を開発 (鳥取県)

- メディカルハーブ・エキナセアの地域への導入を普及組織が提案するとともに、実証試験によりその栽培方法を確立。
- 普及組織より鳥取大学医学部及び農学部に試験を依頼し、抗インフル及び抗花粉症に関する機能性エビデンスを取得。
- メディカルハーブが地域の特産として定着し、オリジナル商品の開発が進展。(作付面積 2a(H22) → 172a(H24))

(連携体制)

県西部農業改良普及所(普及センター)、大山ハーブティ開発研究会(茶業者組織)、鳥取大学医学部、農学部、商工会

(普及組織の取組)

- ・補完代替医療素材として注目されるメディカルハーブ・エキナセアの試作を管内の茶業者に普及組織が提案。大山ハーブティ開発研究会が設立。
- ・エキナセア栽培方法を確立。
- ・普及組織と鳥取大学医学部及び農学部が連携し、抗インフル、抗花粉症評価試験を委託し、機能性エビデンスを取得。



エキナセア栽培風景



エキナセアを使用したハーブティ